



たまねぎ ベと病の防除について

昨年のおたまねぎは、特に中生・晩生の品種で「べと病」が大発生し、大きな被害が出ました。この病気は、気温が15度ぐらいで温暖多雨な時期に感染・発病を繰り返し多発します。今年も多発が懸念されますので、耕種的防除を含めて、農薬散布による防除をお願い致します。



※葉に楕円形・不整形の黄色病斑を形成。病斑部から折れて垂れ下がる。

1. 多発する原因は？

①排水が悪い圃場 ②日陰で風通し悪い圃場 ③気温が15℃前後で、湿度95～100%になる日が続くとき、とくに4月中下旬～5月上旬に曇雨天が続くとき。

2. 耕種的防除

- ①排水の悪い圃場では、降雨後畝間に水がたまらないようにする。
- ②土壌中の病原菌が跳ね上がらないよう敷わら等をする。
- ③越年罹病株（すでに病気にかかっている株）は、早く抜き取り遠くへ処分する。

※「たまねぎ ベと病」の防除薬剤を整理しましたので、ご活用ください。※

3. 防除薬剤

防除薬剤名	使用倍数	使用時期・使用回数	規格	農家渡し価格 (円/税別)	備考
アミスター20フロアブル	2000倍	前日・4回	250ml	3,940	
ジマンダイセン水和剤	400～600倍	3日前・5回	250g	670	予防剤 (3月下旬～ 4月上旬が有効)
ダコニール1000	1000倍	7日前・6回	250ml	1,040	
ホライズンドライフロアブル	2500倍	3日前・3回	200g	2,940	
ランマンフロアブル	2000倍	7日前・4回	100ml	1,000	
レーバスフロアブル	2000倍	前日・2回	250ml	2,600	

農作業のプロにおすすめします。

長く愛用されている 播州の鎌・鍬・鋏をご紹介します。



播州の刃物は打刃物といいます。これは、職人が材料から叩く（打つ）その語源から打刃物と呼びます。

打刃物には鎌、鍬、包丁、鋏など日常における手作りの刃物が播州の打刃物です。

今回は多くの農家に愛用されている鍬、鋏と一緒に紹介します。



鎌

播州の鎌は、薄鎌、中厚鎌、厚鎌など色々な用途の鎌があります。中でも薄鎌、中厚鎌は、刃切れも良く、切れ味も長く使用できます。

これは一つ一つ職人が材料を選び、鉄と鋼を鍛造し、最後の刃研ぎまでこだわって仕上げているからです。

機械で型を抜いている鎌が出回っている中、本当の手打ち鎌となっております。

播州の鍬は、鍬鍛冶が各土地の角度や土地、土地に応じた使いやすい物を作り込んでいます。刃先には鋼を入れ、刃を付けることにより、土の入りや、土切れも良くなります。

そして、刃先を直すことで、ずっと使用することができます。

播州の鍬は、各地の角度、柄の長さ、刃先にこだわり一本一本職人が仕上げています。

鍬



鋏



写真は左から片刃芽切鋏、両刃芽切鋏、剪定鋏、軽量葉刈鋏、片手刈込鋏リング付これは、ひとつひとつ職人が鍛造し叩き研ぎ調整し最高の切れ味、最高の使いやすさを追求しています。

現在使用されている鎌、鍬をはじめ鋏など各種刃物の修繕も承ります。お気軽にお問合せください。

※ご希望に応じられない修繕もございますのでご承知おきください。※



お問い合わせは、お近くのJAならけん営農経済センターへ

発行：本店農業事業部